

物流研究会

http://lse6.u.e.kaiyodai.ac.jp/Navi_Logi/index.html

1. 2010 年度秋季研究会

(1) 日時：平成 22 年 10 月 29 日(金) 13:00～15:05

(2) 場所：鳥羽市民文化会館（3 階中央公民館）

(3) 講演内容

テーマ講演が 2 つ，一般講演が 1 つ行われた。

「わが国の戦略港湾に関わる研究課題」

松尾俊彦(東海大学)

港湾の国際競争力はトランシップ貨物量で計るべきである。国際競争力の問題は，国内のハブ港に集中化に意味があり，その点において国内ハブ港の育成が重要視される。メガオペレータ育成の社会実験という意味においてスーパー中枢港湾に成果を見ることが出来ても「選択と集中」という予算投下の分配方法の検討だけでは今後の方策には限界がある。港湾勢力の動向をみれば，現行の港湾管理者の管理区分では荷主のマイポート化や各自自治体単位のみポートセールスに傾斜する。港と地域経済という管理範囲の面で，今後の研究課題としては，評価尺度の選定に課題があるものの，今後の望ましい国内ハブ港湾の数についての把握を検討していく必要性が報告された。

「港湾の集中で折りたたみコンテナは貢献できるのか？」

新谷浩一(大島商船高専)

オランダのデルフト工科大学と共同研究を進めてきた輸送スペースを減少できる「折りたたみ式コンテナ」は，西欧エリアの航路で試験的に導入されるなど実用化にむけた取り組みが進んでいる。今後の実用化に際してはこれまでの前提では，標準コンテナから折りたたみコンテナへの完全入替による段階的移行が目標とされてきた。本研究では，標準コンテナと折りたたみコンテナが 1 つの船にミックスして運用した場合の可能性について検討がなされた。具体的には，回送，蔵置等の条件を設定し，数値実験の結果，回送距離帯（長距離・短距離）によるミックスした運用の可能性が示唆され

た。アジア地域の急速な経済成長に伴い，コンテナ貨物の流動量が急増する中でのインバランスが進む現状では運用可能性への期待感が再浮上していることが報告された。

「RORO 船市場の特徴に関する基礎研究」

叶ショウ凱（東海大学大学院生），松尾俊彦(東海大学)

これまで進められてきた国際 RORO 船市場の研究は，上海スーパーエクスプレスの研究などがみられる等の研究のみである。モーダルシフト対象船であることから，日本国内では内航 RORO とフェリーの競争関係についての検討が行なわれていない。そこで本研究では，JR5 トンコンテナのような比較的小さなコンテナの流通が拡大し，国際 RORO 船市場も拡大することと合わせて，国内 RORO 船市場の拡大の可能性について検討が行なわれた。具体的には，トラックの輸送経路選択モデルとして正準判別モデルを用いて，棲み分けと競合について，モデル構築に有効とならなかった変数の解釈等を活用し，RORO 船市場の特徴と競合関係の傾向についての報告がなされた。

(4) 研究会総会 15:05～15:30

1) NAVIGATION の執筆について

運営委員会で確認された戦略港湾をテーマにした研究について執筆し，来年の秋口までに分担しながら取りまとめる計画であることが報告された。

2) 予算について

本研究会の予算について，運営委員会で確認された製本と送料等の出版にかかわる費用にあてることとして，繰り越すことになった。

2. 2010 年度秋季運営委員会

(1) 日時：平成 22 年 10 月 29 日(金) 12:00～13:00

(2) 場所：鳥羽市民文化会館（3 階中央公民館）

(3) 議題

1) 来年春の物流講習会について

特別講演について港湾関係者に働き掛けること
になった。

2) 予算について

本研究会の予算(研究会補助金)について検討

した結果、製本と送料等の出版にかかわる費用
にあてることとして、繰り越すことになった。

(幹事:土井義夫)